

當時佛印は万一の場合を考慮しての南方軍の作戦基地として航空部隊の進出、近衛師團の泰 國進駐準備等行われたりしも一減には部隊の集中錯綜するものなく静穩にして佛印當局の態度亦何等變化するものなし

南方軍總司令部の編成と共に澄田機關は廢止せられ其の業務は南方軍總司令部に移管せられたり

第二章 太平洋戦争開始より昭和十九年十二月に

至る間に於ける佛印共同防衛

第一節 太平洋戦争開始より南方軍總司令部新嘉坡

南進運の状況（山所 第二十一師團歸還員報告）

酒井 中 佐 記 憶

一、日佛印軍事協定成立

昭和十六年十二月八日我軍の露米突進戦に方り日佛印共同防衛協定書に基く日佛印軍事協力的協力關係を一層緊密ならしむる爲我國と佛印政廳との間に日佛印軍事協定成立し日佛印間の軍事協力的紐帶は益々強

化せられたり

然れ共我國は飽く迄内政には干渉せず其の主權を尊重し且寧ろ安南獨立運動には嚴正不干渉方針を執れり爲に安南人の對日信頼感を著しく消磨せしめたり

二 南方軍進攻作戦間に於ける狀況

南方軍總司令部は西貢に於て作戦を指導し其の進攻作戦は極めて順調に推移せしを以て佛印に於ては右戰況を反映し一般に對日依存感に因る好意を示し現住民亦克く軍の行動に協力せり

三 第二十一師團の到着

南方軍の戰術序列下令と共に新に南方軍の總下に入りたる第二十一師團（師團長田中久一中將）は昭和十七年一月下旬青島に於て乗船二月三日以降逐次海防港に上陸し直に北部佛印防衛の爲の配置に就きしが其の一部（歩兵團長の指揮する歩兵第六十二聯隊、砲兵一大隊工兵一中隊運幹）は二月十七日第十四軍司令官の指揮下に入らし

X 金邊
○ プムパン(以下同)

められ佛印に上陸することなく比島に向へり

獨立混成第二十一旅團の南部佛印移駐

戦争開始と共に^{プムパン}附近に在りし歩兵一聯隊は泰國に進駐し次で近

衛師團は第二十五軍主力と共に馬來に轉進せるを以て南方軍は獨立

混成第二十一旅團を逐次四貢及金邊附近に移動せしめ第二十一師團

主力の北部佛印到着に伴ひ其の主力を南部佛印を移駐せしめたり

第二節 南方軍總司令部の新嘉坡前進より

印度支那駐屯軍司令部編成迄の状況

(出所 元印度支那派遣軍參謀
記憶 陸軍中佐 石丸作次)

一、南方軍總司令部の新嘉坡前進

昭和十七年五月緬甸に於ける進取作戰終了と共に南方進取作戰一段

落を告げ且南方軍の統帥組織變更に伴ひ南方軍總司令部は爾後の防

衛作戰指導の見地より西貢より新嘉坡に前進し附屬機關亦之に伴ひ

て移動せり

0630

二、獨立混成第二十一旅團の轉進

太平洋方面の戦況に鑑みグアム、ウエー、キリバス兩島防備の爲獨立混成第二十一旅團は大本營直轄と爲り九月佛印を出發せり。爾後佛印には南方軍直轄の下第二十一師團のみ存在し戦局の進展に伴ひ共同防衛上其の兵力不足を認めたりと雖も全般の戦局上兵力増加は容易に實現するに至らず

三、第二十一師團の配置

獨立混成第二十一旅團を抽出したる後第二十一師團長は重慶軍の動向に鑑み防衛の重點を依然北部に置き一部を南部地區に移動配置せり其の配置の概要附圖第二の如し

四、第二十一師團一部部隊の原所屬復歸

巽に比島に派遣せられたる第二十一歩兵團長の指揮する第二十一師團の一部々隊は十二月佛印に到着師團長の隷下に復歸と共に海防ラインエン附近の警備を擔任せり

0631

五 印度支那駐屯軍司令部の編成

南方軍總司令部の轉進後佛印政廳との連絡交渉は大使府を通じ又佛印軍との連絡交渉は第二十一師團司令部に於て實施せらるも此の二元組織は動もすれば政戦略の統一を欠き適當ならざるのみならず第二十一師團の直接交渉は任務過重なり

偶々昭和十七年夏以降の太平洋作戦の進展は佛印の共同防衛強化の要に迫られ是が爲には南方軍直率の機關をして佛印側との政戦略に亘る連絡交渉を行ふ必要を痛感し十一月十日印度支那駐屯軍司令部を編成して南方軍の戦闘序列に編入し之を南貢に位置せしめられたり

軍司令官町尻量中將は涉外部を河内に支部を西貢に置き日佛印軍事協定の原則に基き佛印防衛に關する佛印側との連絡竝に協同の努めたり

然れ共當軍司令部は其の本來の目的上發足に於て既に涉外司令部の

性格濃厚にして作戰軍的機能を有せず佛印に駐屯する第二十一師團以下を統率するの権限無く僅かに南方軍命令に依り防衛上之を指揮せるのみならず指揮に必要な幕僚、通信機關を具備せず、各部亦頗る弱体なり

六 印度支那駐屯軍の任務

印度支那駐屯軍司令部の編成と共に南方軍より與へられたる任務は佛印駐屯の陸軍部隊を指揮し佛印の防衛に協力すると共に對重慶壓迫を強化するに在り

而して南方軍所要の軍需物資の調達補給は南方軍直轄の補給諸廠支廠を西貢に設置せられ之をして實施せしめたるも是等調達の爲必要なる佛印側との折衝は主として軍司令部之を擔當せり

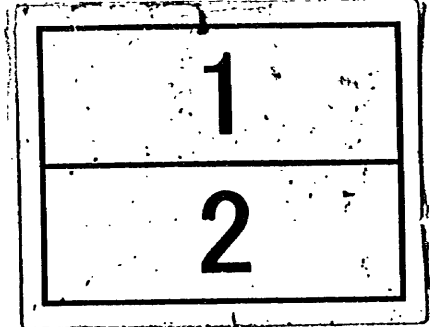
他面緬甸インパール作戰準備の進捗に伴ひ、西貢附近は盤谷附近と共に兵站線路上の重要基盤となり、内地及他方面よりの轉用兵團(16D 31D 54D 等)陸續として經由し、之等の宿營、給養、輸送、戦力恢復等兵

站的業務は當軍の主任務となれり

昭和十七年に於て再度に亘り佛印軍と國境共同防衛に關する研究演習を實施す其の陣地の概要附圖第三の如し

0634

分割撮影ターゲット

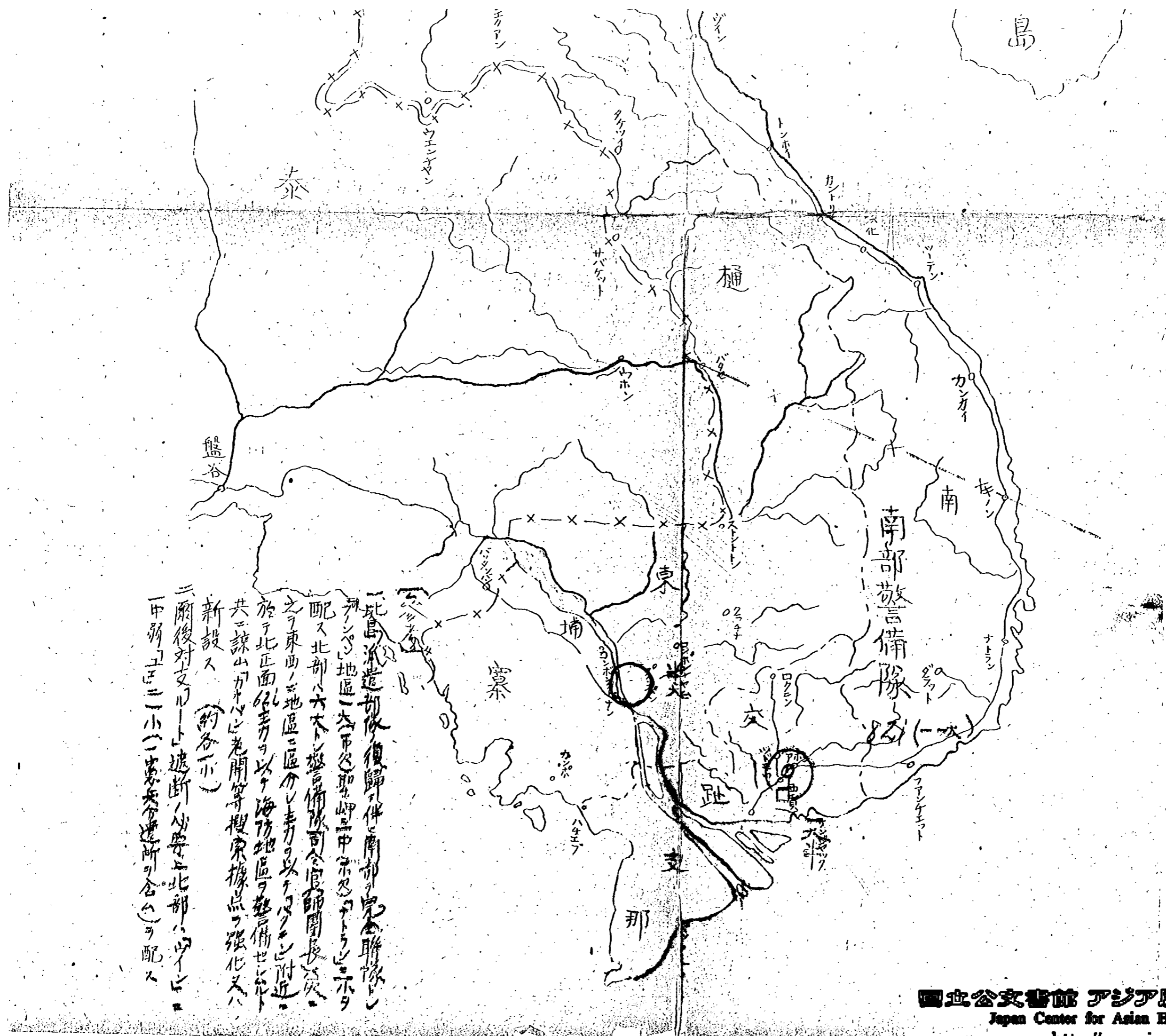
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	第21師団兵力配置要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0635
0636

附圖第二

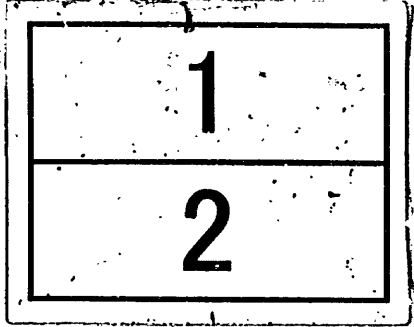
圖要置配方兵團師一十二第
(月一十年七十和昭於)





一 此島派遣部隊復歸に伴い南部完全聯隊に
 配す北部ハ六下ノ警備隊司令官師團長に
 之ヲ東西ノ地区ニ區分シ兵力ヲ以テクマニ附近
 於テ北正面に兵力ヲ以テ海防地区ヲ整備セシム
 共ニ諒山ガ中心ニ老開等搜索據点ヲ強化スハ
 新設ス (約各示)
 二 爾後対支リトシ遮断ノ必要ニ北部ハウイ
 一 中野五三二一小二中隊を分遣所ヨリ各ハ配ス

分割撮影ターゲット

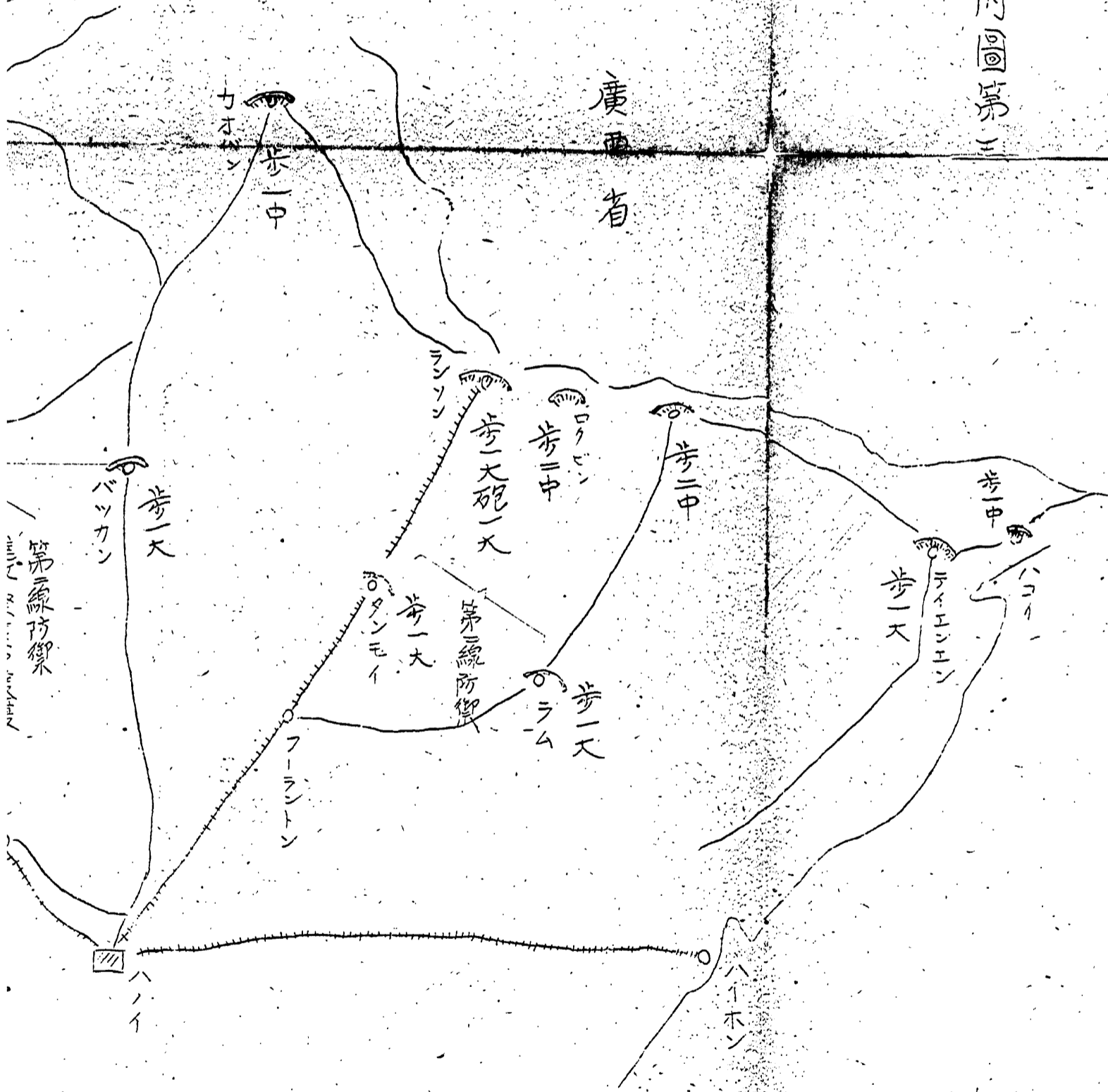
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	国境陣地構築要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0637
0638

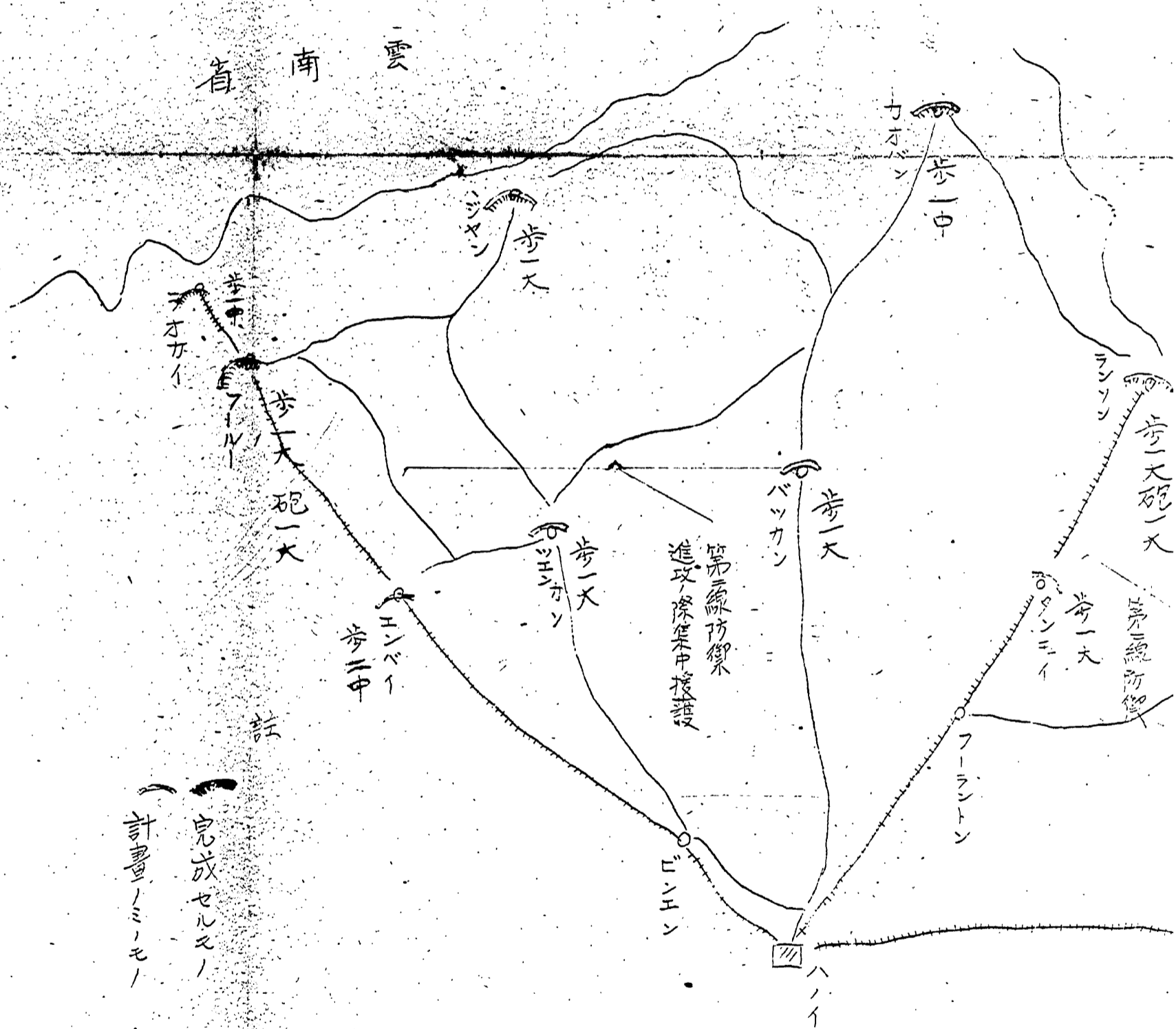
司要築構地障境國

附圖第三

廣西
省



境障地構築要圖



第三節 印度支那混成軍時代に於ける状況

〔出所〕元印度支那派遣軍
記憶 參謀陸軍中佐石丸作次

一、昭和十八年初頭に於ける一般状況

昭和十八年初頭以來太平洋方面の戦局の進展に北阿に於ける獨逸軍の敗退と相俟ち逐次佛印當局の對日依存感を減却せしめドゴール政権の策動と相俟ち逐次佛印側の協同態度消極化す

又在支米空軍の整備に伴ひ北部佛印に對する爆撃頻發化に因り之が人心待に佛人に及ぼしたる影響は極視すべからざるものあり

二、獨立混成第三十四旅團の編成派遣

全般の戦局に伴ひ佛印の安定確保の爲の増加兵力として獨立混成第三十四旅團（四大隊基幹長少尉永野龜一郎）は内地に於て編成せられ十月より昭和十九年三月迄の間に逐次佛印に到着旅團司令部をツランに置き概ねワイン、フアンラン間中部佛印の警備を擔任せり然れ共北部佛印の情勢に鑑み歩兵第八十二聯隊を北部に移駐せしめ

爲に前部師団には建制兵力を充當配置し得ず第二十一師団に對する
補充過剩の兵力を以て前部防衛隊を集成編成し主力を遠東一部をア
ノンベンに位置せしめたり

三、印度支那駐屯軍戦闘序列の下令

印度支那駐屯軍の師団防衛隊に對重慶壓迫の任務の完全なる遂行を
期する爲には佛印駐屯軍司令官の師団所在部隊に對する完全統率の
必要を認められ昭和十八年十二月十日其の戦闘序列を命ぜられ昭和
十九年一月一日を以て統帥を變動せり

戦闘序列の大要左の如し

軍司令官 中將 町 尻 量 雲

印度支那駐屯軍司令部

第二十一師團

獨立混成第三十四旅團

南方軍第一憲兵隊

獨立自動車第三十四中隊

南方第二、同第四陸軍病院

四 印度支那駐屯軍司令部の強化

印度支那駐屯軍の戦闘序列下令と共に軍司令部の編制を強化せられ各部の新設、幕僚の増強を見其の統率能力は著るしく向上せり然れ共軍に通信機關を有せず遠信は専ら南方軍直轄の通信機關に頼れり五 南方軍の統帥組織變更と佛印との關係

比島戦備の急遽整備の必要に基き南方軍の統帥組織再び變更せられ南方軍は新に太平洋方面防衛の重責を負擔せり而して是に基き南方軍總司令官より駐屯軍司令官に與へられたる任務は依然「佛印の防衛に協力して之を安定確保」すると共に「比島戦備強化の爲の兵站援助」を行ふに在り特に比島築積米殆んど大部は軍の負擔とせしめられ軍に異常の努力を以て南方軍の要求充足に努めたるも佛印政廳

側の不徹底なる態度と船舶輸送力の逼迫とに制限せられ意の如く進
 捗せず特に昭和十九年初夏以來敵潜水艦は南支那海にも侵入し且九
 月以來激化せる比島の空襲に依り比島への集積は愈々困難を加へ第
 十四方面軍の戦力發揮に影響するところありたり

六、獨立混成第三十四旅團一部の緬甸派遣

緬甸に於けるインパール作戦失敗以來緬甸は敵の反攻熾烈化し之が
 防衛上の必要に基き南方軍は各方面よりの兵力及補充員の投入を圖
 り軍勢七月獨立混成旅團第三十四旅團の一部（二大隊）の緬甸派遣を命
 ぜられたり

之が爲中部佛印に於ける防衛力は半減し特に漸く活潑化せる在支米
 空軍の中部佛印（ユエ以北）に對する交通破壊に對し佛印軍は何等
 施すに策なく我が兵力の減少は愈々輸送力を減退せしめ北部佛印は
 漸次麻痺状態に陥りんとす

七、獨立混成第七十旅團の新設並に獨立混成第三十四旅團の缺數大隊補

域

南 部 佛 印 に 於 け る 防 衛 力 強 化 の 爲 一 戦 略 兵 團 の 新 設 に 關 して は 南 方
軍 に 於 て も 昭 和 十 九 年 四 月 頃 以 來 具 体 的 研 究 を 進 め ら れ し が 比 島 戦
備 の 強 化 の 爲 容 易 に 之 が 實 現 を 望 ま り し と ころ 沅 月 に 至 り 一 應 の 比
島 戦 略 兵 團 の 態 勢 整 備 を 終 了 し た を 機 と し 緊 急 補 充 員 約 四 千 を 南
部 佛 印 防 衛 隊 (約 二 千) に 加 へ て 獨 立 混 成 第 七 十 旅 團 の 新 設 を 決 定
之 が 發 令 を 見 る と 共 に 新 次 印 度 支 那 駐 屯 軍 の 戰 團 序 列 に 加 へ ら れ た
り

緊 急 補 充 員 は 十 月 より 逐 次 到 著 年 末 に 至 り 漸 く 其 の 編 成 を 完 結 せ り

編 成 並 に 配 置 の 概 要 左 の 如 し

旅 團 司 令 部 西 貢

歩 兵 四 大 隊 一 大 隊 西 貢

一 大 隊 金 邊 附 近

一 大 隊 ビ エ ン ホ ン 附 近

一大隊ミト附近

砲工兵隊各一隊 四頁

戰車隊 四頁

獨立混成第七十旅團の新設と共に獨立混成第三十四旅團の欠數二大隊補填の發令を見たるも緊急補充員の充當不足の爲之が新設の見透し困難たりしところ十一有ナトラン附近に於て遭難せる昭南向高射砲隊の生存者約七百の充當を受け一大隊を新設次々昭和二十年五月現地入營に依る現役兵約五百の教育完了後七月に至り漸く若干の欠員の儘之を完結せり

以上兩旅團共緊急補充員たる國民兵、新年次の末教育兵或は兵種の異なりたるものを以て編成せる爲其の戦力的素質は固より十分ならず

及南方軍總司令部の西貢移轉

北島作戰の進展則南方軍總司令部駐在南方全局統帥の見地に基き再び

0644

西貢に移動し茲に西貢は南方軍の指揮中樞となり駐屯軍司令部との
連繫も愈々緊密となれり

而して總司令部は其の戦闘司令所をダラットに設置すべく準備を開
始すると共に佛印に於ける自活態勢の確立に關し總司令部、軍司令
部相協力して其の施策を進むることとなれり

九 第五飛行師團の金邊周邊地區移動

緬甸方面軍の態勢整理に伴ひ多數の基地を喪失し且比島方面の戦況
にも鑑み南支那海方面の戦備強化の爲從來緬甸に於て活動中なりし
第五飛行師團は昭和十九年末以來遂次金邊地區に其の根據飛行基地
を移動し第五飛行師團司令部亦昭和二十年三月末金邊に到着せり是
より先第二十五獨立飛行團司令部は十二月河内に次で一月西貢に到
著せり

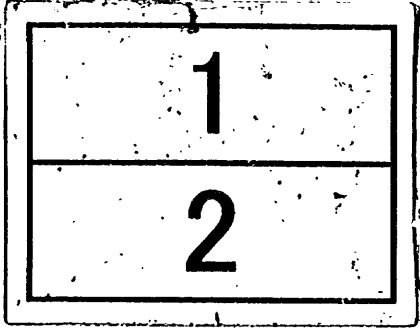
爾後軍は第五飛行師團に協力して其の基地整備の爲大なる努力を傾
注せり

大昭和十九年末頃に於ける駐屯軍の配置の概要附圖第四の如し

二八

0646

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	印度支那駐屯軍兵力配置要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0647
0648

印度支那駐屯軍兵力配置要圖
(於昭和十九年九月末)

附圖第四



